

(別 紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせるように」の理念は職員全員が理解しており、その人らしく暮らせるように環境作りをし日々実践している。	職員の利用者への接し方などを見ているが、利用者の尊厳を守り、その人らしく我が家で暮らすように対応している姿が見られ理念共有が徹底していると感じられる。	理念について外部向けのパンフレットなどに載せたり、大きく掲示されたりすることで施設の思いがより理解されやすくなるかと思われます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新しい場所に移って約1年、毎日の散歩や買い物をとって徐々に地域に溶け込んできている。	新築開所して日も浅いが、地域との連携を深めるためにゴミ集積所の設置や、婦人グループとのかかわりなどを目標している。	いろいろな人たちにグループホームのことを理解してもらうよう今後も努力していきましょう。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	所長が地域の依頼で講演活動をしている。研修者等、毎年受け入れをしている。認知症の理解や支援に貢献していけるよう努める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。民生委員さんより地域の交流について提案していただいた。	2か月に1回定期的に開催され、話し合いの記録もある。地域包括からの情報や、民生委員さんの提案など、だんだん充実してきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡、相談を行っている。運営推進会議にも毎回出席されている。	生活保護についての相談、地域の医者とのかかわりについてなど地域包括支援センターなどに相談にのってもらっている。気軽に連携できていると思われる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間時以外、玄関に鍵をかけることもなく個室にも鍵がない。ベッド柵は転倒防止に使用するのみ。ドラックロックもしていない。	身体拘束と思われるようなものは見られない。施錠等も行わず皆落ち着いた雰囲気の中で生活できている。過去に徘徊の方もあったが職員の対応で1か月ぐらいで落ち着いた実績もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護や言動が虐待にならないよう職員全員が気をつけている。会議で話し合いを持っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等、自主参加している。全職員の学習が十分とはいえない。成年後見については対象の利用者もなく支援に至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、解りやすい説明をするよう心がけ、質問には丁寧に応じる。不安や問題点、相談等あれば来所時、電話等でいつでも行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が設置されている。家族会や月1回利用料持参時、話を聴いている。	意見箱を用意して壁に掛けてあるが職員及び家族からも特に意見箱への投稿はないとの事であった。月1回利用料を持ってきてくれる家族や訪問してくれる家族などから意見を聞くチャンスがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見、提案がだされ運営に反映できている。	定期的に月末に職員会議が開催されている。理事長又はそのほかの理事も参加して職員からの意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や休暇、手当等、他事業所に比べ整備されていると思う。(12, 5%)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習会、研修会等への参加。県の委託で緊急雇用創出事業「トライアル雇用」で学生職員を雇用した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信グループホーム交流会再開され、参加体制にある。研修会等への参加。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴に心がけ利用者が話しやすい環境、雰囲気作りをしている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護の労をねぎらい今までの話を聴く。毎月のお便りで利用者の様子をお知らせする。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	通院時の送迎を行っている。他、必要な場合は支援を行う。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として出来ることはやってもらい、感謝の意を表す。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にして出来る家族にはやっていただいている。(床屋、通院、外出時の運転等)		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や場所へ行き、馴染みの人に声をかけていただく。多くの馴染みの人が面会にきてくれる。	散歩の途中で声をかけていただいたり、面会に来てくれる人もあり、なじみの方に会う機会はできている。本人が希望する時は会いに行くための支援も行っている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の話し合いが日常行われている。また、着脱等に手をかけてあげている。利用者同士が気遣う言葉が聴かれる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所、または亡くなられてからも家族が訪れてくださり何年も続いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で本人の言動から、思いや意向を把握できるようにしている。	現在の入所者の中では思いを表現できる人が多いので、把握はほぼできているが、家族との面会時に要望など聴取して職員会議、カンファレンスに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前の入院、入所施設、本人、家族、ケアマネ等から様子を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルをとり体調、行動を観察、記録する。職員会議での検討も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、その他必要関係者と話し合い援助計画を立てる。職員会議に図り全員周知している。	職員会議、カンファレンスで出された意見等をまとめて、介護計画の作成をしている。家族、職員、本人の意向などを総合した介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し情報を共有しケア計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族から要望があればニーズに応じて必要なケアをに対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、社会福祉協議会、包括センター、地域医療機関等の支援。ボランティアの支援。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医があり、適切な受診が出来、往診もしていただいている。	城下医院が主治医になっていて、相談、往診等スムーズに行われている。保健師と担当医との連携で利用者一人一人の対応が細かくできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の連携がとれており、適切な受診や看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、家族と共に情報交換、相談を行い病院関係者とも良い関係を築いていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期になった場合の意向は前もって家族に尋ねてある。本人のためにどうしたらいいか主治医、家族と相談し本人の意向にあった支援につなげていく。	利用者家族とかわした終末期医療に関する対応について細かく記載してある。又対応できないことについても話をして明記されている。	終末期の支援体制、又看とりについて職員間の研修と合意、医療支援の体制作りなど再度検討を重ね支援の在り方について確立していけたらいいと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会への参加を行っている。 マニュアルにはあるが、定期的な訓練は行われていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、避難訓練実施。 地域の運営推進委員さんにも協力していただいている。	避難訓練は毎年実施してきている。緊急消火用のスプリンクラーの設置など防災対策に対しての設備投資が行われている。	新しい場所に移ってのご近所の協力体制を中心に緊急協力体制を万全のものにしていくよう更なる整備を望みます。夜間の対応、避難経路についても職員間で定期的に周知できればいいと思います。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室へ入る際、声がけ、了解を得る。 人生の先輩として、クライアントとして言葉遣いに注意して対応している。	言葉遣いに対して研修を重ね、細かい配慮をしていることが感じられる。何よりも利用者が落ち着き穏やかに生活していることで職員の対応の良さが感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見を聞いたり、思いや希望を表出できるような声がけの工夫。 散歩に行くかどうか自己決定されている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をしたいか、どの場所に居たいか等、その人の希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着こなしは自由にしていただき服、帽子等でお洒落を楽しんでいられる。髪も好みで長くされている人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	要望を聴き献立に取り入れている。台所が側にあるので、煮たり焼いたりの匂いにも食欲をそえられる。野菜等の皮むきをしたり切ったりの準備から後片付けまで行っている。	利用者の好き嫌いや、食べたいものに対して可能な限り細かく対応している様子が感じられる。調理や配膳に参加したり、利用者同士で協力し合い、楽しく食卓を囲む姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を日々、心がけている。摂取量を記録し栄養を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回、自分で出来る人には声がけをし、出来ない人には職員がお手伝いをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルトイレを使用したり、トイレ誘導を行ったり、個々の排泄にあわせた支援をしている。	個々の排泄の仕方、又自立度に合わせてトイレ誘導を行うなどその人に添った支援が見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、水分の多い料理の工夫。散歩したり、体操したり、身体を動かすよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声がけをして入りたい人に入っていただく。希望によりディサービスの温泉へ行っている。	基本的に午後の入浴となっており、週2回は入浴できている。系列のディサービスの温泉にも時々入浴することができ利用者にとっては楽しみになっている。入りたがらない人も上手に誘導している様子がわかる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団を干したり、リネンの清潔、適度な換気に心がけている。 安心して眠れるよう精神の刺激にならないような対応に心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理がされており、目的、効能について周知されている。症状変化の確認もおこなっている。インスリン自己注射の見守りは必ずおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書の好きな人には、図書館から借りてきた本を読んでいただき、手芸の好きな人には手芸を、歌の好きな人には歌を、と生活に楽しみを持った支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩のほか、ダリア、バラ、桜、と季節ごとの花を見に行ったり外食したりの支援。 買い物同行の支援。	頻繁に同行支援している様子がうかがえる。通院外食については、非番の人が対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で預かり希望されるものがあれば購入代行する。または本人が買い物できるよう支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があると電話できるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、ソファが置いてあり、腰掛けて外を眺めることも出来る。常に温度の調節も行い季節感を味わえる花を飾り居心地良く生活できる工夫をしている。	食堂から続きの談話室の空間はゆったりしていて、利用者が自由にくつろげる環境作りがされている。食堂での談話がはずみ職員とのいい関係が築かれ、利用者の表情が明るい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	展望コーナーがあり好きな時に自由に行かれ、利用者同士が会話したり、一人で外を眺めたり、楽しむ場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が自由に写真を飾り、植物、花、を置いたり工夫されている。 居室の窓から大好きな山や景色が見えると喜ばれている。	中央スペースの周りに居室があり誰もが気軽に交流できる造りになっている。居室にはその人の生活に結びついた好きなものを設置して、自分の居場所づくりへの支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており床はカーペット、手すりもあり、転倒防止になっている。 内部が広いのでウオーカー、車椅子もゆったりと通れていて安全。		